

事業所名	グループホーム赤い屋根の家 (クリックすると事業者の情報にリンクします)
日付	平成18年10月24日
評価機関名	㈲東京リーガルマインド (クリックすると評価機関の情報にリンクします)
評価調査員	A:現職 看護師 資格・経験 看護師、介護支援専門員 B:現職 高等学校非常勤講師 資格・経験 看護師、社会福祉士、福祉住環境コーディネーター
自主評価結果を見る	(事業者の自主評価結果にリンクします)
評価項目の内容を見る	(評価項目にリンクします)
事業者のコメントを見る(改善状況のコメントがあります!)	(事業者情報のうち評価結果に対する事業者コメントにリンクします)

外部評価の結果

概評
全体を通して特に良いと思われる点など(記述)
住宅地の中心にある蕭洒な赤い屋根の建物で、幼稚園・市役所・病院や駅等も近く便利な所であり、また、四季折々の彩りを感じる山々に囲まれた、落ち着いた環境でもある。デイサービスなどが同じ建物内にあり、比較的軽度の認知症高齢者が入居されている。グループホームとデイサービスは連携を密にしており、時にはデイサービスの方が遊びに来られ、共に体操や歌を楽しむなど、適度の刺激となり活動意欲を効果的に引き出せる環境がある。また、両方の家族との交流も大切にしており、3ヶ月に1度「家族会」という形で、勉強会・懇話会なども積極的にやっている。
近くに整形外科や脳神経外科があり、医療との連携も24時間体制で取れており、本人や家族の安心感が高い。
職員はヘルパー2級の主婦の方が多く、行事などのお弁当も手作りされている。季節の新鮮な食材を用い、高齢者の嗜好に合わせた食事は入居者の楽しみの1つにもなっており、まさに「お袋の味」といったこだわりの感じられる料理だった。
代表者は自分の母親の介護体験から、「自分の親だったらどうして欲しいか。」、「自分だったらそこに居たいか。」と常に意識しながら介護することを重視していた。個々の入居者の尊厳と個性を大切に、手から手、心から心に伝わるような入居者と職員の人間性を共に活かせるようあり方を追求しており、現在の状態から出来ることを最大限に活かしながら改善していこうとする姿勢が見られた。管理者・職員は入居者の気持ちを大切にケアの提供に努め、一人ひとり声をかけ、気配りをし、常に人の温かみが感じられ、家族としての幸せがほのぼのと感じられるホームであった。
地域の元気な方にも楽しみと持っていただくよう、月1回、遊びに来ていただき共に昼食を取ったり、認知症の方3名まで通所介護を受け入れたりなど、地域密着型のホームとしての展開が見られる。
入居者本人、家族の希望により、最期まで看取ったケースがある。周辺の入居者も、死を極自然な形で受けとめ、手を合わせておられたとのこと。今後とも、家族の希望によりターミナルも受け入れる姿勢がある。
特に改善の余地があると思われる点(記述)
春のお花見、夏の蓮の花、秋には紅葉と出かける機会が多くあり、近くの観音堂にもしばしばお参りに出かけている。しいて言えば、買物の機会がもう少し増やせないうらうか。

I 運営理念

番号	項目	できている	要改善
1	理念の具体化、実現及び共有		
記述項目	グループホームとしてめざしているものは何か(記述)		
	<p>基本理念として、「個々の能力を引き出し、個性を發揮し、その人らしい「生活」を送れること」を目標としていた。「悲しい時は一緒に悲しみ、嬉しい時は共に喜び、不安や寂しい時には傍に寄り添う」。そんな自然なあり様で入居者・家族の良きパートナーとなれるよう努力し、人生の最後に「あなたに会えて良かった」と思われるような介護を目指している。</p> <p>管理者・職員は、入居者の言動を否定せず聞き入れており、訴えの中から何を望んでいるのかを察し、入居者の立場を常に自分の立場に置き換えて、「自分の親だったら、もし自分だったらどうするか、どうして欲しいか」を念頭において個々が自覚して支援することを重視している。</p> <p>入居者が慣れ親しんだその地域において、その人らしく生活しようとする思いに応える介護を目指している。地域の元気な自立の高齢者が楽しみを持てるようにと昼食に招待して入居者と共に過ごしていただくなど、今出来ることを一生懸命にやっけていくことにより誰もが自然に共生できるための環境作りにも努めている。</p>		

II 生活空間づくり

番号	項目	できている	要改善
2	家庭的な共用空間作り		
3	入居者一人ひとりに合わせた居室の空間づくり		
4	建物の外回りや空間の活用		
5	場所間違い等の防止策		
記述項目	入居者が落ち着いて生活できるような場づくりとして取り組んでいるものは何か(記述)		
	<p>併設のデイサービスとは車で仕切られており、利用者との交流もある。そのことが入居者への良い刺激になっている。調査当日もリズム体操を共にされていたが、入居者の生き生きとした表情が見られた。職員も生き甲斐を持って働いておられる様子で、狭いながらも手作りの温かさを感じられるホームであった。</p> <p>入居者とのコミュニケーションを大切にすることで、精神的な安定が図られている。1人離れて居る方にはさりげなく話しかけ、会話とスキンシップを大事にして一人ぼっちの孤独感を味わわないで済むよう心がけている。</p> <p>本人の趣味や生活習慣の出来ることに目を向け、心を癒し生活に満足できるよう、職員が入居者の要求や個別の生活ベースに合わせる支援をしている。</p>		

III ケアサービス

番号	項目	できている	要改善
6	介護計画への入居者・家族の意見の反映		
7	個別の記録		
8	確実な申し送り・情報伝達		
9	チームケアのための会議		
10	入居者一人ひとりの尊重		
11	職員の穏やかな態度と入居者が感情表現できる働きかけ		
12	入居者のペースの尊重		
13	入居者の自己決定や希望の表出への支援		
14	一人で行えることへの配慮		
15	入居者一人ひとりに合わせた調理方法・盛り付けの工夫		
16	食事を楽しむことのできる支援		

III ケアサービス(つづき)

番号	項目	できている	要改善
17	排泄パターンに応じた個別の排泄支援		
18	排泄時の不安や羞恥心等への配慮		
19	入居者一人ひとりの入浴可否の見極めと希望にあわせた入浴支援		
20	プライドを大切にされた整容の支援		
21	安眠の支援		
22	金銭管理と買い物の支援		
23	認知症の人の受診に理解と配慮のある医療機関、入院受け入れ医療機関の確保		
24	身体機能の維持		
25	トラブルへの対応		
26	口腔内の清潔保持		
27	身体状態の変化や異常の早期発見・対応		
28	服薬の支援		
29	ホームに閉じこもらない生活の支援		
30	家族の訪問支援		
記述項目	一人ひとりの力と経験の尊重やプライバシー保護のため取り組んでいるものは何か(記述)		
	<p>管理者・職員は、入居者の過去の生活歴や楽しみとなっていたことの経験の中から、入居者の出来ることに目を向け、好きなこと得意なことは何かを考え、それを行うことによって豊かな感性を取り戻すようにし、職員と共に生活を楽しくできるように気配りをしている。貼り絵はクラフト陶芸、真田綱の籠や花瓶敷などの作品が見られた。</p> <p>入居者個々が、集団の中で役割意識が持てるように誘導している。洗濯物のたたみ、テーブルの上で出来ること、野菜の皮むきなどの調理の下ごしらえ、サラダを仕上げる、味付けを聞くなどして特別なレクリエーションではなく生活動作の中で身体機能のアップを目指し、入居者個々の残存能力の維持向上に努めている。無理やりではなく、出来ない人はテレビを見たり、具合の悪い人は部屋で過ごさせていた。</p> <p>プライバシーの保護としては、インターネットでの情報公開やホームの定期的な便りなどに顔写真を載せる時は家族の了解を得て掲載している。</p>		

IV 運営体制

番号	項目	できている	要改善
31	責任者の協働と職員の意見の反映		
32	家族の意見や要望を引き出す働きかけ		
33	家族への日常の様子に関する情報提供		
34	地域との連携と交流促進		
35	ホーム機能の地域への還元		
記述項目	サービスの質の向上に向け日頃から、また、問題発生を契機として、努力しているものは何か(記述)		
	<p>勉強会が充実しており、職員は採用後の初心者研修や、継続研修を年2回受けている。「ぼちぼちいこうねっ」との会員としても参加しており、介護関係の知見を深めている。スキルアップのための勉強会を週1回、デイサービスとの合同で月1回行って情報の共有に努め、ケアサービスの質の向上に取り組んでいる。</p> <p>代表者・管理者は、研修で新しい知見を得て自己研鑽に努めると共に、若い人の意見にも耳を傾ける姿勢を持っている。何か職員間で問題が起きた時はそのままにせず、話し合うことでお互いが気付いたり、認め合うゆとりが出ており、そのためか離職者が少ない。併設のデイサービスの職員の協力も得られる。</p> <p>年3回、入居者も参加して避難訓練を実施している。毎回、火元を具体的に決めて実施する事で、災害防止に努めている。夜間を想定した避難訓練も行い、大事に至ることを予防している。</p> <p>ヒヤリハットを積極的に書き、原因と対応、今後の対策を検討し、問題発生防止につなげ積極的に改善していこうとする姿勢が伝わってきた。</p>		